



Annual Report

年次報告書 2020

公益財団法人 日本YWCA

プロフィール

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。

日本では、24の地域YWCAと37の中学・高等学校YWCAが活動しています。

女性や子どもや高齢者など、弱い立場におかれている人たちの本来の力を取り戻し、共に生きる世界を実現する人材を養成しています。

日本YWCAのビジョン

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に作る社会

日本YWCAのミッション

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます

日本YWCAのバリュー（大切にしている価値）

1.キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣^{なら}って行動します。

2.平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。

すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3.人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくれます。

4.セーフ・スペース

会員（ボランティア）が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。

常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

目次

● 新型コロナウイルスの流行とYWCAの活動

● 若い女性のリーダーシップ養成

日韓ユース・カンファレンス

ひろしまを考える旅

全国ユース・ギャザリング

全国コアユース・ギャザリング

中高YWCAの活動

「北京+25」ジェンダー平等に向けたアドボカシー活動

● 被災者支援活動

東日本大震災被災者支援

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

セカンドハウスプログラム

リフレッシュプログラム

熊本豪雨災害被災者支援

● 国際連帯・アドボカシー

パレスチナYWCA支援／オリーブの木キャンペーン

オンラインによる国際交流

海外緊急支援

声明・賛同

● 寄付報告

新型コロナウイルスの流行とYWCAの活動

2020年初頭から世界に広がったCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）は、今日に至るまで、私たち一人ひとりの生活・人生に深刻な影響を及ぼしてきました。その中でドメスティック・バイオレンスの増加、従前からの不安定な経済基盤や雇用による収入の途絶、偏った家庭内労働負担、社会的・精神的孤立など、女性、特に若い女性たちが困難な立場に置かれる状況が生じました。

YWCAは、日本全国24の拠点、また世界100か国以上において、すべての世代の女性たちの安全な居場所（セーフ・スペース）をつくり、守るため働いています。日本全国のYWCAは2020年度、大幅なオンラインへの移行など、さまざまな場面で実施方法を大きく変えることを余儀なくされながらも、支援の呼びかけに応えてくださった多くの方の助けを受けて、女性や少女たち、地域のニーズに応えようと活動してきました。

日本 YWCA

- 若い女性たちの孤立を防ぎ、支え合う場をつくるための「web セーフ・スペース」を開催
- YWCA 活動スペース・カーロふくしまにて、休校や授業短縮などに対する小中学生を対象とした学習支援「カーロでスタディ」の開催、中国YWCAや他団体からの寄贈物資を子どものいる家庭や福祉団体に配布



若い女性のためのwebセーフ・スペース

地域 YWCA

- 神戸YWCA 介護事業所「まごの手」、夜回り活動等、福祉活動の現場で手作りマスクを配布。
- 平塚YWCA 閉校期間中、子どもたちの学ぶ機会と居場所となる「ワイワiskूल」、子ども食堂「YYきっちん」を開催。
- 東京YWCA 「留学生の母親」運動を通じ、情報提供や資金供与や奨学金によって留学生を支援。青少年育成事業部「いちごの部屋」で、外国ルーツ青少年にオンラインによる日本語学習支援、ブログやメールで保護者へ情報提供。「教育キャンプ」でバーチャルキャンプを実施。
- 札幌YWCA 不登校・ひきこもりぎみで悩んだり迷ったりしている子どもたちが学校に戻れるようにサポートするフォローアップスクールを継続実施、Y's Café・カフェ壘で癒しを提供するミニコンサートを開催、手作りマスク製作。
- 熊本YWCA カフェ、自習できるスタディールームを継続して開室し、閉校期間中の若い女性の居場所を確保。
- 広島YWCA 市内の病院に応援の手作りメッセージ。
- 名古屋YWCA 「手洗い」を呼びかける動画配信、ウィメンズカウンセリングによる心のケア。
- 京都YWCA 外国にルーツを持つ住民の電話相談窓口提供。コロナ禍の中での思いを分かち合う「カフェフリーデン」オンラインしゃべり場を実施。



神戸YWCAのマスク配布



平塚YWCA「ワイワiskूल」

大きく変化する状況の中だからこそ、社会の中で女性たちがリーダーシップを発揮するための人材養成、すべての人が尊重される社会を実現するための提言発信、東日本大震災被災地で生活する女性や子どもたちへの支援を含め、YWCAが各地域でおこなってきた活動を継続することが大切と考えています。

日韓ユース・カンファレンス

アクションを起こす「セーフ・スペース」

2年ごとに日本と韓国の若者が日韓共通の課題に取り組む「日韓ユース・カンファレンス」。2020年度は、昨年のプログラムで提案されたアクションを実行する日本YWCA独自の取り組みとして「オンラインでのフェミニズム運動」を展開しました。若者を対象とした4回の「おしゃべり会」では、「なんかおかしいよね」という気づきを大事に、低用量ピル・家事労働・LGBTIQと労働・信仰とジェンダー／セクシュアリティといった身近なテーマを、同世代の視点で一緒に考える場を設けました。SNS上のキャンペーンでは、本や映画の紹介や、世界YWCAの資料からフェミニズムに関する用語の解説、そして一人ひとりがジェンダーに関わる生きづらさを発信する参加型キャンペーンをおこないました。



日韓ユース・カンファレンス実行委員会メンバー



オンラインおしゃべり会

(左)「#あなたとジェンダーを考えたい」キャンペーン写真
(右) ジェンダー用語・イラスト解説

参加者の声

2020年、最も自分を変えた2時間でした。おしゃべり会は、人生をプラスの方向に転じさせる、自分にとってとても大きなきっかけとなりました。私は小学校教師を目指しているの、ここで学び、感じたことを、子どもたちに伝えていけるような教育者になりたいと思います。

大学もオンラインになっている状況で、友人と何気なく議論したり、話し合う機会がまったくない状態です。ここ数カ月、社会問題について真剣に考えている私って変なのかな、と感じてしまうことがよくあります。精神的に苦しい時間がずっと続いていて、今回ようやく重い腰を上げて参加できました。皆さんのおかげで久しぶりに、安心して考え、話すことができ、涙の出る思いでした。

ひろしまを考える旅

「この状況の中でどう伝えあうか」ということを考えた一年

「ひろしまを考える旅」は、核兵器による惨事を二度と繰り返さないために、平和の大切さを学び、平和な世界を実現したいと願い、広島で実施する2泊3日（オプションツアー参加の場合は3泊4日）のプログラムです。1971年に始まり、2021年には50周年を迎えます。COVID-19の影響で「対面でのプログラム」の実施ができなかった2020年度は、オンラインで2つの活動を実施しました。1つは「原民喜研究家 竹原陽子さんと読む『夏の花』」。竹原さんの言葉で「民喜の足跡」を聴き、原爆が落とされたあの日の広島に思いをはせる時間になりました。もう1つは2020年8月6日に開設した「ひろしまを考える旅 50周年記念サイト」(<https://ywca-japan.wixsite.com/hiroshima50th>)とオンラインキャンペーンです。2021年8月にむけて、広島と長崎の被爆の実相と日本の加害の歴史を考え、さまざまな視点から互いに「ひろしま」を伝えあう「旅」を続けます。



『夏の花』書影



50周年記念特設サイト

全国ユース・ギャザリング

2020年10月4日(日) @オンライン/弘前・仙台・東京・熊本

YWCAによろこそ。出会い、ネットワークするギャザリング

YWCAに関わる全国のユースが一堂に会し、ネットワークを強める場として企画しました。COVID-19の影響により当初予定していた青森県・弘前での対面開催には至りませんでした。地域拠点とオンライン参加のハイブリッド形式で開催が実現しました。ギャザリングでは、核燃料の危険性と弘前YWCAの反核運動の歴史についての講演を聴き、①核のない世界、②COVID-19流行下での課題、③多世代協働の課題の3つのテーマで意見交換をおこないました。



グループワークの成果

参加者の声

原 発の問題について考えるとき、防災や環境への影響、原発の作業員や近隣住民への差別、風評被害などについての話題が真っ先に頭に浮かびます。しかし、そもそも原発を建設する際に、郊外の産業がない街や集落といった「何かあっても都市が守られる場所」を選んでいる事実を知り、そこに人権侵害が存在していることにショックを受けました。誰かの犠牲によって恩恵を受けている私は、ただただ原発の地域住民の皆さんに感謝するのではなく、具体的に住民の皆さんが安心して暮らしを送ることができるように、現状や歴史を知ること、考えること、行動することをしていかなければならないと感じました。

全国コアユース・ギャザリング

2020年9月12日(土)～13日(日) @オンライン

ユースの有意義な参加と多世代協働が社会を変えると信じて

全国のYWCAで運営委員や役員として中心的に活躍するユースが集まり、「横のつながり」を通じて、共通する悩みへの解決策を模索する場として開催しました。最終的にはユースだけではなく、さまざまな世代や背景をもつ人と協働して、社会変革を進めていくことを目指しています。

参加したユースたちは、それぞれの経験・知識・問題意識を出し合い、ユースがより積極的にYWCA運動に参加し、その意見が活動に反映されていくための具体的な提案を構築しました。



Zoom画面の写真

参加者の声

全 国で活躍するユースと意見交換ができ、大変有意義でした。活動する地域は違っても、同じような課題を共有していることに改めて気づかされました。YWCAの組織も、私たちが暮らす社会も、ユースがエンパワーされることで、ますます発展していくという確信がもてました。私も、自分の関わる委員会やプログラムを通して、ユースの声が具現化されるよう頑張ります！

中高YWCAの活動

中高YWCA 「webカンファレンス 西の方」開催

全国37の学校が参加する中高YWCAの取り組みは、「自分の学校以外の人とつながれる」場を提供してきました。COVID-19の流行によりプログラムの中止が相次ぐ中、有志によって「webカンファレンス 西の方」がおこなわれました。関西地区と西南地区の9校から生徒63名、教員他22名、計85名が参加し、オンライン会議独特の不便さやハプニングも楽しみながら出会う時間を持ちました。ユースのボランティアがファシリテートするグループワークでは、「パートナーシップってなに?」「心地の良い関係ってどういうこと?」など、普段の生活の中で感じているけれど言葉にできていないことを、お互いに言葉にしていく時間を持ちました。

グループでお話しよう!

Share Time!

- どうすればより良いパートナーシップにできるかな?
- 自分の経験も参考にしながら、みんなで考えてみよう!

話したい範囲でOK!



カンファレンスで使用したスライド

「北京+25」ジェンダー平等に向けたアドボカシー活動

北京会議から25年。当時を知る人とユースが共に声をあげる

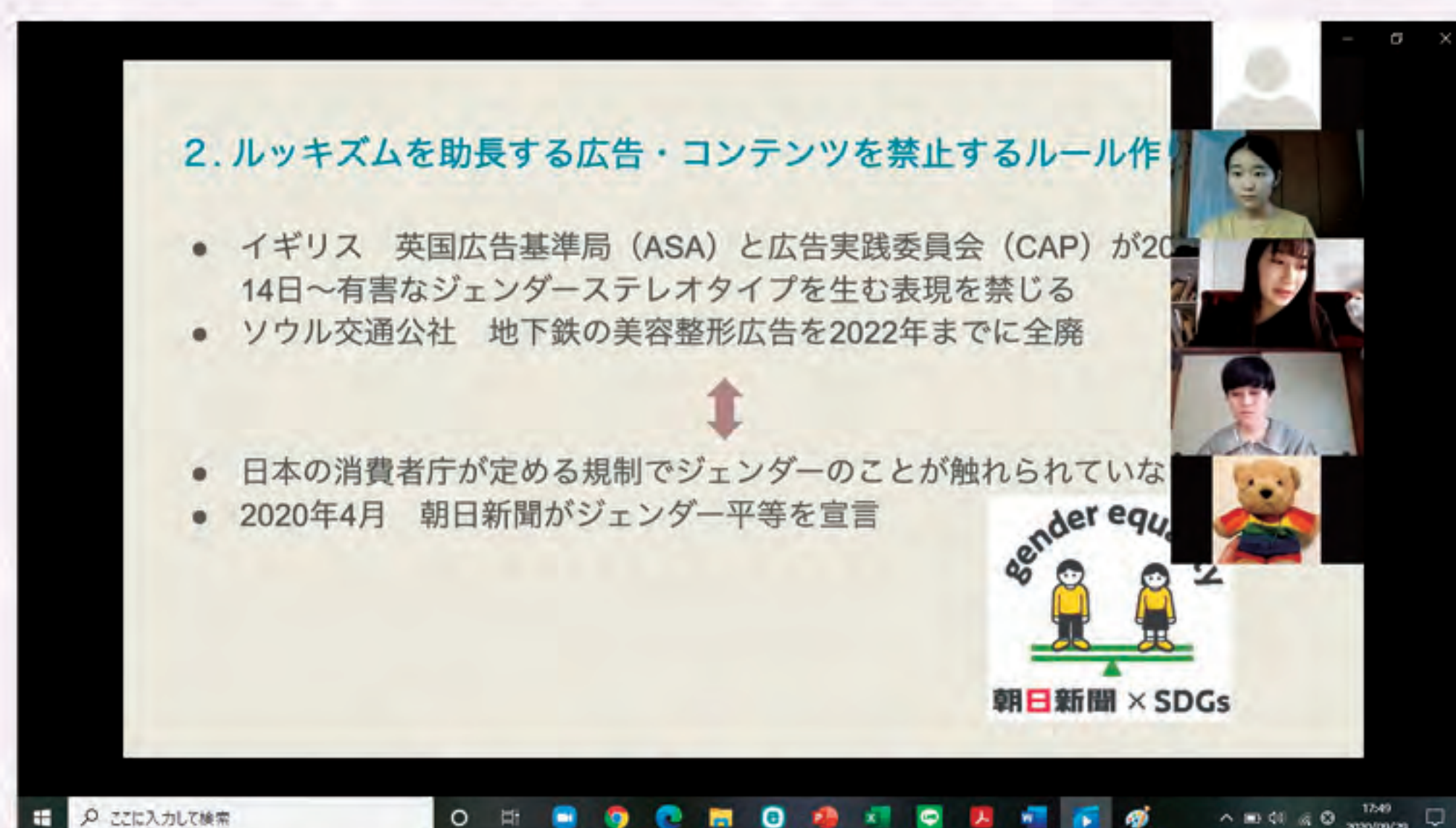
2020年は、1995年の第4回世界女性会議（北京会議）から25年という、ジェンダー平等に関する国際的な節目の年です。この会議で採択された北京行動綱領は、12の重大問題領域で各国政府、国際機関、NGO等がとるべき行動指針を示す、ジェンダーに関するあらゆる国際文書の中で最も包括的で高い水準の政策枠組みとされています。しかし、採択から25年が経つにもかかわらず、ジェンダー平等への道のりは未だ半ばです。

日本YWCAは2020年、10人中7人が35歳以下のユースからなる「北京+25チーム」を中心に、以下の活動を展開しました。

ワークショップ「考えよう！若者とネット社会～フェミニズムの視点から～」

2020年9月26日（土）@国立女性教育会館主催「男女共同参画推進フォーラム」（オンライン）

特にユース世代にとって、インターネットは人と繋がる上で欠かせない、また大きな影響を受ける空間です。このワークショップでは、3人のユースが報告者として、インターネット社会におけるルッキズム（外見評価）が若い女性に及ぼす心理的負担や新自由主義的な動きとの関連について、当事者の経験・視点から説明しました。また、性差別・性暴力のない安心・安全なインターネット社会にするための4つの提言を述べました。



NWECフォーラム発表

「第5次男女共同参画基本計画」に対するパブリックコメント提出

2020年10月、「第5次男女共同参画基本計画」策定に向けた内閣府の呼びかけに対応してパブリックコメントを提出しました。

日本YWCA 提出パブリックコメントの主な要望

- 個人と多様性の尊重、法の下での平等、暴力のない平和な社会を目指す上で、日本国憲法を踏まえた基本計画にすること
- 在日コリアン女性、外国にルーツのある女性、女性障がい者、トランスジェンダー女性を含むセクシュアル・マイノリティ女性、若い女性など、より困難な状況に置かれた女性への複合差別をなくすこと
- 男性片働きを前提とし世帯を一単位とする諸法制度・慣行を、個人単位に変えること
- 原子力関連施設の誘致・稼働・廃炉などに関して、女性の声が、検討・決定過程に十分に反映されること
- 北京宣言・行動綱領に沿って、平和構築、特に日本軍「慰安婦」問題の解決に向けて、日本政府が取り組む内容を具体的に記載すること
- 男女共同参画をめぐる国の意思決定に、一貫して若者、特に若い女性と少女の視点が含まれるようにすること

「北京+25」記念イベント開催

2020年11月22日（日）@オンライン

2020年11月に開催したオンラインイベント「北京女性会議・北京行動綱領採択から25年！ジェンダー平等に向けたIntergenerational Dialogue」では、UN Women（国連女性機関）日本事務所、内閣府男女共同参画局、UN Womenが呼びかけたユースの国際チーム「Generation

Equality Youth Task Force」、加えて全国のYWCAから多世代のスピーカーを迎え、25年を経ての社会の変化や現在も残るジェンダーの課題、「北京+25」の政策をめぐる国際協議へのユースの参画、第5次男女共同参画基本計画などについて報告・協議しました。同イベントはUN Women日本事務所・内閣府男女共同参画局の後援を受け、147名の参加を得て開催されました。



「北京+25」記念イベント・バナー

第65回国連女性の地位委員会（CSW65）へのステートメント提出

毎年3月に米国・ニューヨーク国連本部で開催される国連女性の地位委員会（UN Commission on the Status of Women: CSW）。日本YWCAは2020年10月、第65回CSWへの文書提出を初めておこない、各国政府や国連に対する要望を表明しました。



CSW65にステートメント提出

CSW65への提出文書の主な要望

- 若い女性、特に周縁化された若い女性が意思決定に参加すること
- 原発や軍事基地、新型コロナウイルスの影響を女性が特に強く受けることを踏まえ、それらの問題に関する決定に女性、特に若い女性や少女の声を反映すること
- 意思決定機関における女性の割合が低い背景となっている「アンコンシャス・バイアス」（無意識のバイアス）の解消に取り組むこと

CSW65パラレルイベント「北京+25に関する若い女性たちの取り組み：日本の経験から」

2021年3月26日（金）@オンライン

オンライン開催となったCSW65に合わせ、日本YWCAはNGOパラレルイベント「Young Women's Beijing + 25 Initiatives: Experiences in Japan（北京+25に関する若い女性たちの取り組み：日本の経験から）」を実施しました。日本のYWCAで活動する若い女性たちが、ジェンダーに基づく暴力に対するアドボカシー活動や中高生を対象とした人権トレーニングなどの取り組みを紹介し、また北京行動綱領の12の重大問題領域に含まれる「女性に対する暴力」「女性と武力紛争」「女性と経済」「女性とメディア」のテーマに関し、若い女性の視点から見た日本の文脈における課題について紹介し、ジェンダー平等の実現のために必要な行動・政策について世界各国からの参加者と意見交換をおこないました。

東日本大震災被災者支援

日本YWCAの東日本大震災被災者支援活動は、あの日に生まれた子どもたちが20歳になるまで支援を続けようと立ち上げられたcom7300委員会が企画・運営しています。「com」は「ともに」の意味、「7300」は20年間の日数です。

YWCA 活動スペース「カーロふくしま」

コロナ禍の中でこそ、顔の見えるサポートを

「カーロ」はイタリア語で「親愛なる」「大切な」を意味し、YWCAの東日本大震災支援の活動拠点として、2012年11月、JR福島駅にほど近い福島市矢剣町に開設しました。福島に住む女性や子どもたちをサポートし、震災後の生活や放射能による不安や悩みを解消し、安心して話し・集い・学ぶためのセーフ・スペースとなるよう、さまざまな活動をしています。心とからだの安全と安心をサポートする講座、生活にリフレッシュや潤いを与えるワークショップなどを開催し、またスペース提供という形で地域の市民活動を支援しています。加えて全国各地の保養を実施している団体と連携し、福島市近郊の皆さんへの保養情報提供や相談会の会場提供もおこなっています。

2020年度はCOVID-19の影響によって、予定していたワークショップは中止を余儀なくされ、カーロふくしまを会場に開催していた「おはなし会」企画はすべてオンラインに切り替えました。

このような状況下においても、コロナ禍の中だからこそ必要とされる支援を模索し、臨時休校が続く小中学生への学習支援「カーロでスタディ」を8月からスタートしました。

- カーロふくしまおはなし会（オンライン・5回開催）
- カーロでスタディ（月2日各4回・計31回開催）
- そのほか、パステルシャインアート教室、保養団体への会場提供など

のべ350名利用



カーロでスタディ
(上・右)



おはなし会

セカンドハウスプログラム

家族でリラックスする「もうひとつのわが家」

セカンドハウスプログラムは、福島県内および放射線量の高い地域に居住する家族やグループ、および単身女性を対象に、自宅同様にリラックスして過ごせる家族型滞在保養プログラムです。

2020年度は、初頭からのCOVID-19の流行が、利用者に大きな影響を与えました。また、申し込み後も多くのご家族が、利用直前の感染状況によりキャンセルするという事態が続きました。

それでも、全国各地での保養（線量を避け県外で中長期にわたって滞在する）プログラムが軒並み中止や延期になる中、家族単位で利用できるセカンドハウスプログラムはその強みを活かし、セーフ・スペースとして「いつでもあなたを待っています」との思いと、大家さんの多大なご協力によって2020年度も1年間運営を続けることができました。

セカンドハウスは、活動の趣旨に賛同してくださる大家さんから住宅を無償で提供していただき、地域YWCAや近隣のボランティアの皆さんが運営のサポートをおこなうなど、たくさんの方々のご協力によって運営されています。

利用者の声

昨年初めてセカンドハウスを利用しました。今年はコロナの影響で利用を迷いましたが、やはり子どもの身体への影響を考え、申し込みさせていただきました。こういった状況にもかかわらず、明るく暖かく迎え入れて下さった大家さん。2回目でしたがとても懐かしく、顔を拝見したときはホッとしました。

リフレッシュプログラム

リフレッシュプログラムは、全国各地の地域YWCAが、それぞれの地域の特色を活かしたプログラムを、夏や春の子どもたちの長期休暇に合わせておこないます。放射能の影響の大きい地域で日々を暮らす子どもたちが、県外の安心・安全な場所で中長期間滞在し、心身ともにリフレッシュするために実施しているプログラムです。YWCAならではのチームワークで運営されるプログラムは、毎年参加を楽しみにしているリピーターも多く、小学生の時から参加していた子どもが中学生になり、リーダーを担うようになったYWCAもあります。

2019年の年末からCOVID-19が広がり、困難な状況の中でも「福島の子どもたちを何とか招きたい」と実施のための検討を重ねましたが、2020年度はほとんどのYWCAが、計画していたプログラムを断念せざるを得ませんでした。

2021年度は、感染症による社会情勢を注視しながら、新たな開催方法を模索していきたいと考えています。

熊本豪雨災害被災者支援

2020年7月3日未明から4日朝までに降り続いた豪雨で、熊本県南部地域では広範囲にわたる洪水被害や土砂災害、道路や鉄道への被害が起きました。熊本YWCAは災害直後から被災者支援活動に動き出し、日本YWCAは関係団体と連携し熊本YWCAをサポートする形で支援活動をおこないました。

熊本YWCAは2016年4月の熊本地震に際しても多くの会員・ボランティアと共に被災者支援活動をおこないましたが、今回はCOVID-19の影響で、県外からボランティアに入ることが難しいという、これまでにない状況に阻まれました。

その中でも熊本YWCAは、これまでの活動で培ったネットワークを活かして、球磨村の二つの指定避難所、球磨病院、スペシャルオリンピックス人吉ブランチ、人吉市避難所、被災された個人や商店、人吉市障害福祉課、保健師などを訪問してニーズを聴き取り、以下のような活動を実施しました。

- ①地域の教会への物資支援
- ②球磨病院：入院患者への物資支援や転院支援、医療用物資の提供、被災した医療関係者への物資支援
- ③被災した外国人家庭への、ニーズに応じた物資支援
- ④障がいのある方への支援：ニーズの聴き取り、関係各所との連携やつなぎ、物資の配達など
- ⑤避難所への支援物資配達：特に浸水後の拭き取り作業等に使う消毒液や子どものおもちゃなど
- ⑥その他ネットワークづくり

また、全国のYWCAから差し入れを募集し、長引く避難生活や暑い中での片付け作業に追われる被災地の方々がほっと一息つける場を提供しました。

2020年秋以降は、中長期活動に切り替え、被災家屋・田んぼ等での片づけ、被災した農家での収穫作業の手伝い、被災地域の職人さんによるクラフト教室などをおこないました。2021年度も支援とリフレッシュを兼ねたプログラムを計画しています。



支援物資到着



被災地（球磨病院）にて



被災地（下青井地区）にて



被災地（大柿地区）にて

パレスチナYWCA支援／オリーブの木キャンペーン

パレスチナに希望の木を植える

パレスチナでは、長年続く軍事占領により、人々の生活が脅かされています。JAI（パレスチナYWCA・東エルサレムYMCAの共同プロジェクト）は、パレスチナの人々の生活に深く根ざしたオリーブの木の植樹という非暴力的かつ世界中の人が寄付により参加できる方法で、現地の状況を広く伝え、雇用創出、環境保全、生活の安定化をはかる取り組みをおこなっています。日本YWCAは、この「オリーブの木キャンペーン」を支援しています。3000円のご寄付で1本のオリーブの苗木を植えることができます。2020年度は、日本YWCAから214本の苗木を植えるための募金を送りました。

また、日本YWCAは、パレスチナYWCAが実施している紛争解決に向けたリーダーシップ・トレーニングや女性の自立のための職業訓練、保育所運営などを支援しています。



寄付されたオリーブが植えられた
パレスチナの農地

オンラインによる国際交流 パンデミック下でつながりを保つ

COVID-19パンデミックによる移動の制限のため、例年実施している国際プログラムの多くが中止を余儀なくされる中、YWCAは新たな形で連絡を保ち、国際的な支え合いを試みました。2020年4月と5月には、世界YWCAの呼びかけのもとで世界各国YWCA代表者が参加するオンライン会議が開催され、世界YWCAや各国の状況や活動が共有されました。そのほか、7月には韓国YWCAの呼びかけによりバーチャル形式のアジア地域YWCA会議が開催され、9月のパレスチナYWCA主催オンライン・パネルディスカッション、11月の世界YWCA主催ユース・パネル、12月の香港YWCA100周年記念イベントに日本YWCAメンバーが登壇するなど、多くのオンライン交流を実施しました。また、医療物資が不足した4月、中国YWCAからはマスクの支援が寄せられました。

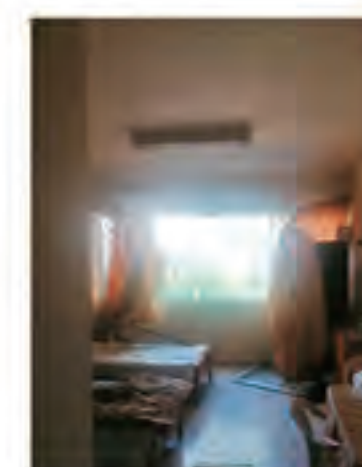
海外緊急支援 YWCAの国際ネットワークを通じた災害支援

日本YWCAは、海外のYWCAと連携し、災害等の際には募金を呼びかけて、現地のYWCAの活動をサポートする形で、緊急支援活動をおこなっています。2020年度に支援した活動は以下のとおりです。

- レバノンYWCA：2020年8月のベイルート爆発事件を受けた損害回復と被災者支援活動
- バングラデシュYWCA：COVID-11を受けた食料品・衛生品配布事業
- ホンジュラスYWCA：2020年11月のハリケーン被災者支援として、家や職などを失った母親たち・若い女性たちへの緊急支援物資の配布、シェルターで発生している性暴力事件等に対応した性暴力反対キャンペーンなどの活動

(上) 爆発の損傷が修復されたレバノンYWCAの若い女性向けホステル

(下) ホンジュラスYWCAからの礼状



Before



After



声明・賛同

- 「NPT諸加盟国に対し、核兵器廃絶のためのより大胆な行動を速やかに取るよう求める、市民社会による共同声明」団体賛同（5月11日）
- 「辺野古新基地建設に関する声明」発表（5月24日）
- 「#BlackLivesMatterに連帯し、人種主義の撤廃を求める声明」発表（6月22日）
- 「イスラエルによる西岸地区併合計画に対する声明」発表（6月29日）
- 「イスラエルによるヨルダン川西岸地区併合を阻止するための行動を取ることを要請します」団体賛同（7月1日）
- 「外国籍住民への再入国制限に関する要望書」提出（8月7日）
- 「第5次男女共同参画基本計画に対するパブリックコメント」提出（9月18日）
- 「国連女性の地位委員会（CSW65）へのステートメント」提出（10月16日）
- 「核兵器禁止条約の発効要件達成に関する日本YWCA声明」発表（10月26日）
- 「脱炭素化に賛同し、原子力発電以外の方法での達成を求める声明」発表（11月15日）
- 「『核兵器禁止条約発効の今、北東アジア非核兵器地帯の検討を求める』日本政府への要請書」団体賛同（2月1日）
- 「森喜朗東京五輪・パラリンピック組織委員会会長の女性蔑視発言に対する抗議声明」提出（2月5日）
- 「新型コロナウイルスに関わる知的財産権保護免除の要請書」団体賛同（2月11日）
- 「ミャンマーにおける軍事クーデターに対する抗議声明」提出（2月12日）
- 「抗議声明文『戦没者の遺骨を辺野古新基地建設に使用しないでください』」提出（3月5日）
- 「国際女性デー ウィメンズマーチ東京」団体賛同（3月8日）
- 「東日本大震災より10年を迎えて」日本YWCA声明発表（3月11日）
- 「“Open Japan's Gate for All” すべての人に、日本の扉を開けてください——難民申請者を追放する『出入国管理及び難民認定法』の改悪に反対する教会共同声明」団体賛同（3月12日）
- 「出入国管理及び難民認定法の改定案の閣議決定に対する意見書」提出（3月17日）
- 「止まらぬヘイトクライムを非難し、政府に緊急対策を求める声明」団体賛同（3月30日）

2020年度も多くの
皆さまからご支援
をいただきました！

日本YWCA賛助費	1,575,000円
ピースメーカーズ募金	1,894,239円
東日本大震災被災者支援募金 (うち カーロふくしまサポーター 737,000円)	3,035,128円
災害時支援募金 (パレスチナ支援、熊本豪雨災害/海外緊急支援含む)	5,344,116円
オリーブの木キャンペーン募金	647,000円
日本YWCA指導者養成寄付金	310,000円
合計	12,805,483円

2020年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。

日本YWCAは、2021年度も引き続き、平和で誰もが尊重される社会にむけた女性たちの主体的な活動を支援していきます。

引き続きのご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子

日本YWCAの活動をご支援ください。

募金の種類

- ピースメーカーズ募金 …… 平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。
- 東日本大震災被災者支援募金 …… 被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
- 賛助費 …… 日本 YWCA の活動全般をご支援ください。
[一口年額] 3,000 円 / 5,000 円 / 10,000 円
- 災害時支援募金 …… 緊急支援活動に用います。
- オリーブの木キャンペーン募金 …… 一口 3,000 円で、オリーブの木 1 本をパレスチナに植えます。
寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレート
を置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。

※日本YWCA への募金/ 寄付金 (賛助費を含む) は、税額控除の対象になります。

募金方法

▶銀行振込

三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743 (口座名) 公益財団法人日本 YWCA
ゆうちょ銀行 支店名 019 当座預金 023723 コウエキザイダンホウジンニホンワイダブリューシーエー
Eメールで ①募金の種類、②ご住所、③お名前を、また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、
④お名前のローマ字もお知らせください。(税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します)

▶郵便振替

00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本 YWCA
通信欄で ①募金の種類、②ご住所、③お名前を、また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、
④お名前のローマ字もお知らせください。(税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します)

▶クレジットカードで募金 (つながる募金)

つながる募金からのご寄付は全て、東日本大震災被災者支援事業に使われます。

右のQRコード
からアクセス ▶



携帯からご寄付
される場合

ソフトバンクの場合 ➡ 寄付金は毎月の電話料金に加算されます。
他の電話会社の場合 ➡ 寄付金はクレジットカードでのお支払いになります。

つながる募金

▶口座振替で募金、カーロふくしまサポーター募集中！

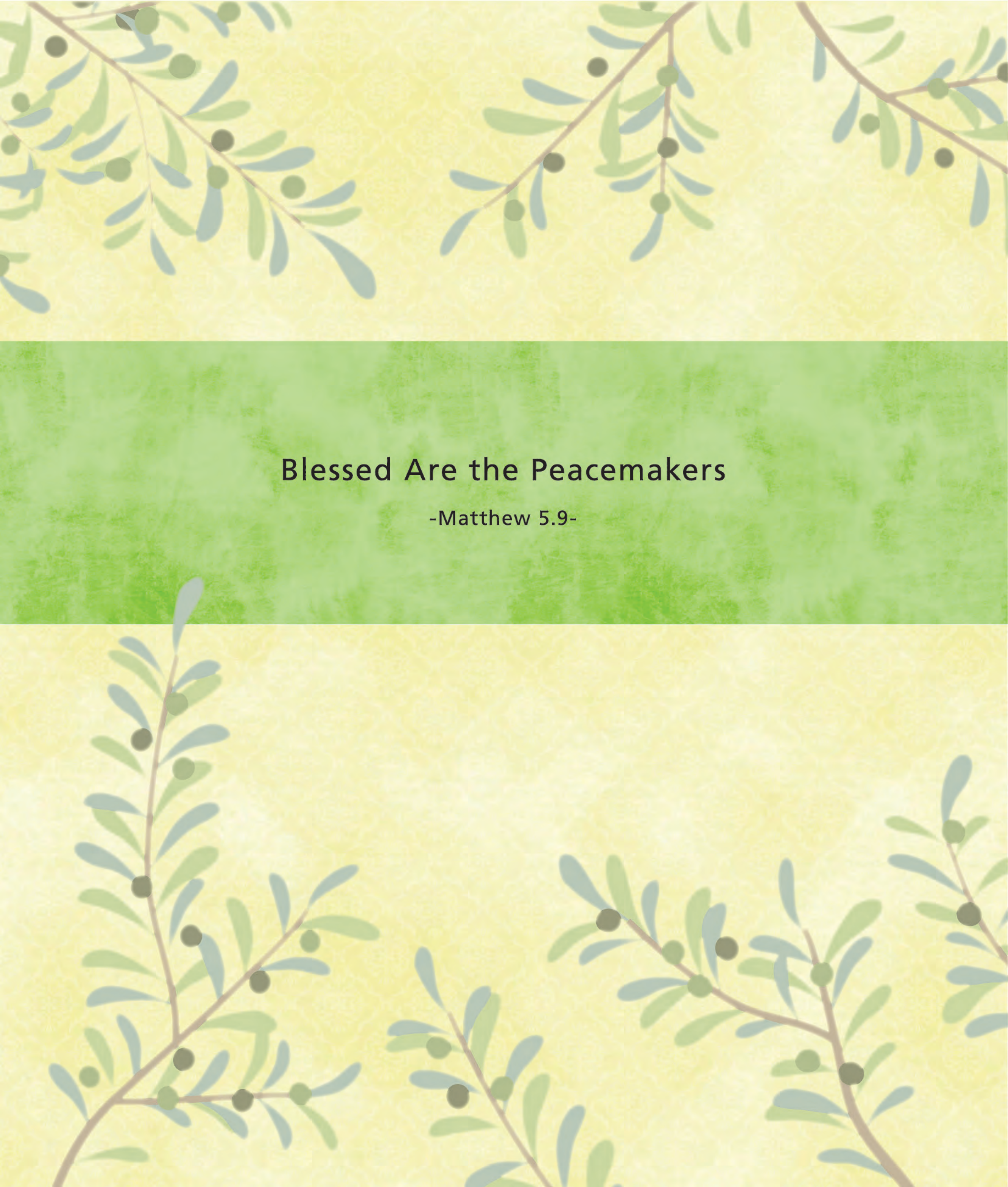
毎月の自動引き落としで、東日本大震災被災者支援事業の一つ「カーロふくしま」を支えてください。
お申し込みは日本YWCA (office-japan@ywca.or.jp) までEメールにて、
お名前・ご住所・電話番号・メールアドレス、毎月の引落希望額 (500 円/1000 円) をご連絡ください。

公益財団法人 **日本YWCA**

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA 会館 302 号室

Tel: (03)3292-6121 Fax: (03)3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp

Website: <http://www.ywca.or.jp>



Blessed Are the Peacemakers

-Matthew 5.9-